

2024/5/30

<参加者募集要項(追加募集)>

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団
夏期インターンシップ

「グローバル・インフラストラクチャーに関する調査研究」

公益財団法人「日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団(日本 GIF)」は、持続可能な社会の実現のため、国をまたぐ大規模なインフラストラクチャー(エネルギー輸送網、国際流域における水資源管理システム、国と国を結ぶ交通ネットワークなど)と、それに関連する国際機関の動向や各国の政策等について、1990年の財団創立から調査・研究を行っています。詳細は日本 GIF のウェブサイトをご覧ください(<https://www.gif.or.jp/about>)。

このたび、大学生を対象に、調査研究の手法や論文執筆を体験していただく「夏期インターンシップ」を開催いたします。専門家やチューターから調査研究の方法を学び、グループでテーマに沿った調査研究に取り組んでいただきます。最後に、結果を論文に取りまとめる経験をしていただくプログラムとなっています。

本企画は今年で4回目になり、参加者のみなさまには毎年ご好評いただいています。調査研究の方法や論文の書き方を学びたい、他大学の学生と分野の垣根を超えた交流をしたいという皆様のご応募をお待ちしています。

今回、選考の結果、若干名の余裕ができましたので追加募集をいたします。**なお、随時選考し、定員に達し次第募集を締め切ります。募集の受付状況については随時更新しますので、当財団ウェブサイト(<https://gif.or.jp/>)の「インターンシップ情報」にてご確認ください。**

インターンシッププログラム実施の目的

- グローバル・インフラストラクチャーの重要性を、若い世代の多くの方に知っていただきたい
- お住まいの地域を問わず、大学生の皆さんに広く体験・交流の機会を提供したい
- 調査研究に興味を持つ方を増やしたい

昨年の参加者の声

「自分と異なる経歴を持つ人や、多くの経験を持つ人の話を聞いたことが、成長するきっかけになった。」

「大学ではできない2か月に渡る研究活動や、論文執筆活動をグループで行い、新たな知識や考え方を身に付けることができた。発表の仕方や学生として必要な力を先生方に教えてもらい、とても勉強になった。」

「チューターにサポートしてもらいながら執筆するという貴重な体験ができた。また、自分と同

じく、国際的なインフラや国際問題に興味がある学生に出会えたことが何よりの財産になった。」

「対面ミーティングで仲を深めることができた。」

「自分の普段の学問分野と関連付けながら調査を進める傍ら、他の学生の専門分野の知恵を借り知識を増強させるということが、やっていて面白かった。」

「2 か月間 1 人だけで調べ続けていたらモチベーション的にきつかったと思うが、みんなが毎回ミーティング時にすごく調べているのを見て自分も頑張ろうと思えたので、チームでやってよかった。」

「プログラム内容が充実していて、2 ヶ月は短いと感じるくらいだった。」

実施期間

2024 年 8 月 3 日(土)～10 月 6 日(日)

上記期間内に、1 泊 2 日の宿泊型対面ミーティングを 2 回、オンラインでのグループミーティングを 4 回予定しています(詳細は下記参照)。

期間内の活動時間は、1 週間におよそ 4 時間程度を想定しています。

プログラム内容

1, 宿泊型対面ミーティング①

日程: 8 月 3 日(土)13:30～17:00、8 月 4 日(日)9:30～12:00

※初日の夜は懇親会を予定。宿泊・懇親会の参加は任意。

会場: 東京都内の研修型ホテル

内容: 調査研究の進め方、論文の書き方などについて、大学教員など専門家が説明します。その後、数名のチームに分かれて、グループワークを行います。各グループに、「あるグローバル・インフラストラクチャー(イメージは後述)が 20 年以内に実現可能か、可能にするにはどのような条件があるか、不可能ならその理由は何か」という研究テーマを提示します。チューターを交えて、研究テーマの内容や、今後の研究の進め方について話し合います。

調査研究の例： 中東平和水パイプラインについて

(インターンで実際に取り組む研究テーマではありません)

1986年にトルコは、アラビア半島にある諸国にトルコが水を無料で提供する為の「平和水パイプライン」建設を提案しました。しかし、「平和水パイプライン」は20世紀中には実現しませんでした。ところがトルコは2010年代半ばに、同国の南東部から北キプロスへの海中パイプラインを建設して、水を無料で提供し始めました。現在、トルコはヨルダンへのパイプライン建設と水の提供を提案しています。

「今から20年以内にトルコからヨルダンへのパイプライン建設と水の提供は実現する可能性は有るのか、可能性があるとしたら、その為に不可欠な条件は何なのか」を、教員やチューターのサポートを受けながら、チームで調査して明らかにします。

2, オンラインミーティング(4回予定)

- 2週間に1回程度、1回1~2時間ほど、チューターの指導の元、チームのメンバーで調査研究の進め方について話し合います。
- 次のミーティングまでの間に、チームで決めた計画に従って各自で調査研究を進め、再び持ち寄ります。
- 最後には、メンバーで分担して、学術論文を執筆します。

3, 宿泊型対面ミーティング②

日程：10月5日(土)13:30~17:00、10月6日(日)9:30~12:00

※2日目は12:00以降に昼食をとってから解散。宿泊・2日目の昼食の参加は任意。

会場：①と同じ東京都内の研修型ホテル

内容：グループワークを行い、2日目の午前中に、各チームの研究成果を発表します。

募集人数

若干名

※選考の結果、若干名の余裕ができましたので追加募集をいたします。

対象者

- 日本国内の4年制大学に在籍する大学生(大学院生は除く)
- 調査研究に興味がある方であれば、学部・専攻は不問(理系・文系どちらでも可)
- 年齢、性別、国籍不問(留学生の方はご相談ください)
- 日本語による講義が理解でき、日本語でのコミュニケーションが可能な方

※今年度、本プログラムの募集にすでにご応募いただいた方は再度の応募は不可といたします。

参加条件

- 8月3日(土)～4日(日)および10月5日(土)～10月6日(日)の宿泊型対面ミーティングに参加できる方
※ どちらか1回のみしか参加できない方は不可といたします。
- オンラインミーティングに参加できる方
※ インターネット環境や、パソコン等の機材は各々ご用意をお願いいたします。

費用

- 参加費は**無料**です。
- 自宅から宿泊型対面ミーティングの会場(参加者に追ってご連絡します)までの、2回分の往復の旅費(交通費および宿泊費)は、**当財団が負担**します。東京近郊在住の方の交通費・宿泊費も負担します(ただし、ご自宅から会場まで日帰り可能な方の宿泊は任意です)。
- 宿泊型対面ミーティング時の食事、懇親会の費用は**当財団で負担**します。

その他

- 期間中は、当財団の費用で傷害保険に加入します。
- グループ分け、担当する研究テーマは、こちらで決定します。
- 執筆していただいた論文を素材にして作成した成果物は、当財団の研究成果として公表させていただきます場合があります。
- 宿泊型対面ミーティング②終了後に、インターン修了証を発行します(日英可)。

応募・選考方法

下記の書類(1)–(3)を info@gif.or.jp にご送付ください。

なお、随時選考し、定員に達し次第募集を締め切ります。募集の受付状況については随時更新しますので、当財団ウェブサイト(<https://gif.or.jp/>)の「インターンシップ情報」にてご確認ください。最終締め切りは 2024年6月25日(火)17時です。

- (1) 履歴書(書式は任意)
- (2) 本人確認書類のコピー(学籍、居住地が確認できるもの、学生証などの身分証明書)
- (3) 課題

あなたは海辺の町の町長補佐です。
あるとき、町長が潮汐発電(潮汐力発電)を我が町でやろうと言い始めました。
潮汐発電とは、潮の満ち引き(潮汐の差)を利用して発電する方法です。
町長に対して、潮汐発電について、何を検討するように進言しますか？
重要だと思われる検討事項を重要度の高い順に3つ挙げて、その理由を説明してください。
(A4用紙1枚程度)

- 2024年8月3日時点で18歳未満の方は、応募書類の提出前に、保護者の同意を得てください。
- 送付いただいた個人情報は当財団の規程に従い適切に取り扱い、本プログラムの実施以外の目的での使用はいたしません。選考後、不採用者の情報は速やかに破棄します。
- 参加をお願いする方には、2024年6月28日(金)までに当財団より連絡いたします。それまでに当財団からの連絡がない場合は、ご参加いただけない旨、ご了承ください。

お問い合わせ先

公益財団法人日本グローバル・インフラストラクチャー研究財団 事務局

電話: 03-4567-6267/050-5601-8106 (平日 9:30~17:30)

Email: info@gif.or.jp